

習志野市教育委員会会議録
(令和6年第9回定例会)

- 1 期 日 令和6年9月25日(水)
市庁舎3階大会議室
開会時刻 午後1時30分
閉会時刻 午後2時55分
- 2 出席委員
- | | |
|-----------------------------------|---|
| 教 育 長
委 員
委 員
委 員
委 員 | 小 熊 隆
古 本 敬 明
赤 澤 智 津 子
高 橋 浩 之
馬 場 祐 美 |
|-----------------------------------|---|
- 3 出席職員
- | | |
|---|---|
| 学校教育部長
生涯学習部長
学校教育部参事
学校教育部次長
生涯学習部次長
学校教育部副参事
学校教育部・生涯学習部副技監
教育総務課長
学務課長
保健体育安全課長 <small>(青少年センター所長)</small>
指導課長
総合教育センター所長
社会教育課長
中央図書館長
学校教育部主幹
学校教育部主幹
学校教育部主幹
学校教育部主幹 <small>(習志野高等学校事務長)</small>
学校教育部主幹
学校教育部主幹
保健体育安全課主任指導主事 | 島 本 博 幸
府 馬 一 雄
佐々木 博 文
野 村 健 一
芹 澤 佐 知 子
相 澤 慶 一
塩 川 潔
早 川 誠 貴
寺 嶋 耕 一
荻 原 洋
利根川 賢
江 住 敏 也
越 川 智 子
岡 野 重 吾
宮 崎 宗 長
西 郡 隆 司
伊 坂 尚 子
小久保 範 彰
奥 山 昭 子
志 摩 豊
黒 田 みのり |
|---|---|

4 議題

第1 前回会議録の承認

第2 報告事項

- (1) 臨時代理の報告について(令和6年度教育費予算案(5号補正)について)
- (2) 臨時代理の報告について(令和5年度教育費決算について)
- (3) 臨時代理の報告について(令和6年度習志野市立小・中・高等学校学校運営協議会委員の任命について)
- (4) 令和7年度習志野市立習志野高等学校入学者選抜における選抜・評価方法について
- (5) 令和6年度全国学力・学習状況調査について
- (6) 次期習志野市子どもの読書活動推進計画の策定に関するアンケートの結果報告について

第3 議決事項

議案第28号 令和6年度習志野市教育委員会顕彰規程に基づく表彰について

第4 協議事項

協議第1号 次回教育委員会定例会の期日について

第5 その他

5 会議内容

小熊教育長

令和6年習志野市教育委員会第9回定例会の開会を宣言

小熊教育長

本会議の審議を傍聴したい旨の申し出はないが、習志野市教育委員会傍聴人規則に定めのある定員10名を超える今後の傍聴の申し出について、受け入れが可能な範囲で受け入れることについて報告した。

小熊教育長

会議規則第13条の規定により、報告事項(3)及び(4)並びに議案第28号を非公開とし、報告事項(4)の非公開部分の会議録については、千葉県定める公表日以降に開催予定である次回の定例会において会議録が承認された後に公開することについて諮り、全員異議なく提案どおり決定された。

小熊教育長

令和6年第8回定例会の答弁の訂正の許可について諮り、承認された。

寺嶋学務課長

「報告事項(5)実籾小学校の小規模特認校の認定について」の質疑中、小熊教育長からの「通学区域の重なっている場所の正式な名称について説明していただきたい」との御質問に対し、「正式名称は、「調整区域」である」と回答したが、「正式名称は、「弾力化区域」である」という回答に訂正させていただくとともに、お詫び申し上げます、と発言

小熊教育長

教育委員会として、資料を整え、しっかりとした説明ができるように、準備を進めていきたい、と発言

小熊教育長が他に質疑なしと認め、答弁の訂正は終了した。

小熊教育長

令和6年第8回定例会の会議録について承認を求め、承認された。

報告事項(1) 臨時代理の報告について(令和6年度教育費予算案(5号補正)について)
(教育総務課)

早川教育総務課長

報告事項(1)「臨時代理の報告について(令和6年度教育費予算案(5号補正)について)」、説明する。

資料1ページ目を御覧いただきたい。令和6年度教育費予算案(5号補正)の説明書である。市立小中高等学校体育館及び袖ヶ浦体育館に空調設備の設置工事をするものである。事業概要欄を御覧いただきたい。体育館の空調設備の設置については、児童生徒の教育環境の改善及び災害時における避難所機能の向上を図るため、早期設置に向けて、現在、設計を行っているところである。現在、昨今の猛暑を受け、全国的に空調機器の需要が増大しており、一刻も早く事業に着手する必要があることから、令和6年度補正予算で、債務負担行為を設定するものである。これにより予算を確保し、今後の工事発注につなげていくというものである。債務負担行為の設定期間については、令和6年度から令和8年度までの3か年である。令和7年度中に、ほぼ全ての体育館に設置をするとしているが、大久保小学校については、入札の不調が発生したことにより、令和8年度の早期の設置を目指すとしている。債務負担行為の限度額については、29億730万円となっている、と概要を説明

小熊教育長

空調設備の設置工事について、課題となっていることを補足して説明していただきたい、と質問

早川教育総務課長

どのような順番で設置をするのか、また、昨今、空調機器の需要が増大していることから、工事を受注する事業者や空調機器を設置する担い手が不足していると言われているため、工事の受注者を確保し、しっかりとスケジュールを組んだ中で早期の設置をすることが大きな課題である、と回答

小熊教育長

地域や市民から1日も早く設置するよう強い要望があるが、しっかりとした方向性を示して、納得していただくことが大切であると捉えている、と発言

小熊教育長が他に質疑なしと認め、報告事項(1)は終了した。

報告事項(2) 臨時代理の報告について(令和5年度教育費決算について) (教育総務課)

小熊教育長が質疑なしと認め、報告事項(2)は終了した。

報告事項(5) 令和6年度全国学力・学習状況調査について

(総合教育センター)

江住総合教育センター所長

報告事項(5)「令和6年度全国学力・学習状況調査について」、説明する。7月26日に公開された、令和6年度全国学力・学習状況調査の速報値での習志野市の状況を報告する。

スライド番号1を御覧いただきたい。令和6年4月18日に調査を実施した。小学校6年生は国語と算数の評価、中学校3年生は国語と数学の評価である。小中学校ともに、生活習慣や学校環境等に関する質問調査を実施した。

スライド番号2を御覧いただきたい。本市の小学校の国語における平均正答率は73%となっており、全国と比較し、5.3ポイント上回っている。経年変化のグラフから、昨年度より平均正答率が2ポイント上昇していることがわかるが、これは「読むこと」をはかる設問における正答率が上昇したことが1つの要因であると考えられる。

スライド番号3を御覧いただきたい。小学校の算数における平均正答率は69%となっており、全国と比較し、5.6ポイント上回っている。令和3年度より、徐々に平均正答率が下がっていたが、今年度は、「変化と関係」をはかる設問における正答率が上昇したことが1つの要因として考えられ、昨年度よりも2ポイント上昇している。

スライド番号4を御覧いただきたい。経年変化のグラフを見ると、中学校の国語における平均正答率が過去3年間と比べて下がっているが、全国や県の正答率も低いことから、問題の難易度が上がったことが要因として考えられる。ただし、中学校の国語における平均正答率は61%となっており、全国と比較しても2.9ポイント上回っている結果となっている。

スライド番号5を御覧いただきたい。中学校の数学における平均正答率は57%となっており、全国と比較し、4.5ポイント上回っている。経年変化の表を見ると、平均正答率が昨年度よりも1ポイント下がっている。これは、「データの活用」をはかる設問においての正答率が下がったことが要因として考えられる。

スライド番号6を御覧いただきたい。グラフの赤い点線は、全国の平均正答率の値を100として示したものである。本市の青い線との幅が外枠に向けて広いほど全国平均との差が大きいことを示している。なお、このレーダーチャートの右下にあるA、B、Cが学力に関する項目となっていることから、主にこの記号がついた箇所について説明をさせていただく。小学校の国語については、「読むこと」をはかる設問の正答率が高く、「書くこと」をはかる設問の正答率が低い傾向だということがわかる。「書くこと」をはかる設問の本市の平均正答率は、全国の68.4%に対し、70.7%となっている。

スライド番号7を御覧いただきたい。小学校の国語の結果を受けて、課題と改善方法をまとめたものである。目的や意図に応じて、自分の考えが相手に伝わるよう、書き表すことに課題があり、この課題を改善するためには、条件付き作文など、その条件に当てはまる内容を考えて、書く活動を取り入れることで、目的や意図に応じた書く力が身につくと考えられる。また、自分の考えを書くことへの抵抗感を減らすためには、作文教材に限定せず、感想や考えを書く活動を繰り返すことが重要となってくる。

スライド番号8を御覧いただきたい。中学校の国語では、小学校の結果と同様、「読むこと」をはかる設問の正答率が高い傾向にある。また、「書くこと」をはかる設問の本市の平均正答率は、全国の65.3%に対し、68.3%となっている。

スライド番号9を御覧いただきたい。中学校の国語においても、小学校と同様の課題がある。課題を改善するために、条件付き作文など、その条件に当てはまる内容を考えて、書く活動を取り

入れる必要があると考えている。また、自分の考えを具体的に書くために、考えの根拠を明確にさせる活動を取り入れるようにしていく。自分の経験や文章から読み取ったことなど、ミニ作文形式で書く活動を取り入れていくことも効果的だと考えている。

スライド番号10を御覧いただきたい。小学校の算数では、「変化と関係」をはかる設問の正答率が高い傾向にある。また、「図形」をはかる設問の本市の平均正答率は、全国の66.3%に対し、69.7%となっている。

スライド番号11を御覧いただきたい。小学校の算数においては、図形の意味や性質の理解に課題がある。この課題を改善するためには、学習したことを生かせるように、振り返りの場を設定したり、既習を想起できる掲示物を準備したりしながら、教師が算数の系統を考慮した上で指導する必要があると考えている。また、図形の意味や性質の理解を深めるために、立体図形などの実物やアプリ上で作成した図形の操作や観察をさせたりしながら指導をしていく。

スライド番号12を御覧いただきたい。中学校の数学では、「図形」をはかる設問の正答率が高い傾向にある。また、「データの活用」の正答率がやや低い傾向である。「データの活用」をはかる設問の本市の平均正答率は、全国の55.5%に対し、58.5%となっている。

スライド番号13を御覧いただきたい。中学校の数学においては、複数のデータを比較して、数学的な表現を用いながら説明をすることに課題がある。この課題を改善するためには、データの収集や分析をする活動を多く取り入れることや、数学にとどまらず、他教科においても同じようにデータの活用を取り入れた学習を推進していく。分析したことを数学的な表現を用いてまとめられるように、数学用語の掲示物を作成していく。

スライド番号14を御覧いただきたい。生活習慣や学校環境等に関する児童質問紙調査の回答結果について報告する。小学校の結果であるが、平日1日当たりのゲーム等の時間について、棒グラフの左から右へ、時間が少なくなるほど平均正答率が高いことがわかる。

スライド番号15を御覧いただきたい。中学校の結果においても、時間が少なくなるほど平均正答率が高くなることがわかる。

スライド番号16を御覧いただきたい。小学校の平日1日当たりの動画視聴時間についてである。昨今の児童生徒は、YouTubeなどを視聴する機会が大変多いと承知している。こちらも視聴時間が少なくなるほど、平均正答率が高いことがわかる。

スライド番号17を御覧いただきたい。中学校の結果であるが、小学校と同様の結果となっている。このことから、ゲームや動画視聴に費やす時間が、学習時間の確保や学力の定着度と関連していることが考えられる。

スライド番号18を御覧いただきたい。児童生徒の意識に関する調査の結果についてである。小学校では、「自分には、よいところがあると思いますか。」との問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の平均正答率は、国語73.5%、算数69.3%とどちらの教科においても、自分のよさを感じている児童の方が高い傾向にある。

スライド番号19を御覧いただきたい。中学校についても、国語62.0%、数学58.0%と小学校と同様に、どちらの教科においても、自分のよさを感じている生徒の方が平均正答率が高い傾向にある。この結果を踏まえて、ほめて認める指導を啓発していきたいと思っている。

スライド番号20を御覧いただきたい。小学校の「5年生での授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。」との問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の平均正答率は、国語74.0%、算数69.9%とどちらの教科においても高い傾向にある。

スライド番号21を御覧いただきたい。中学校についても、国語63.3%、数学60.0%と小学校と同様に、どちらの教科においても、平均正答率が高くなる傾向にある。このことを踏まえ、児童生徒一人ひとりの特性や習熟度に適した学習を提供することで、児童生徒の学力向上につなげていきたいと考えている。

スライド番号22を御覧いただきたい。小学校の「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」という問いに対しても、有効な回答をしている児童の方が、国語73.8%、算数69.3%と平均正答率が高い傾向にある。

スライド番号23を御覧いただきたい。中学校についても、国語62.5%、数学58.5%と小学校と同様に、平均正答率が高い傾向にある。このことから、小中学校において、児童生徒一人ひとりが互いの考えを尊重しながら、課題解決に努め、協働的な学びを実現するための支援が必要となる。

スライド番号24を御覧いただきたい。今年度の分析においても、各教科と質問紙調査の結果から、本市の教育の課題が明らかになっている。このスライドでは教育委員会としての今後の取り組みの方針について説明する。今回、報告した内容を基に、習志野市学力向上委員会において、さらに分析を進め、課題の改善方法を検討し、令和6年度版の「ならしの学力向上プラン」を作成する。スライドの右側にあるものが、昨年度作成したものである。今年度は、この令和5年度の学力向上プランに基づき、学校への指導を行っているところである。今後も「ならしの学力向上プラン」に基づき、合同訪問や授業研究、公開研究会などで学校を訪問した際に、指導や助言を行っていきたいと考えている、と概要を説明

高橋委員

スライド番号6について、昨年度、唯一全国平均を下回っていた「書くこと」に関して、平均正答率を伸ばしていくという方針になっていたが、今年度は上回っている。これは、なかなかできることではないので関係各位の努力に敬意を表したいと思う。また、私は健康教育学を専門にしており、その中でもセルフエスティームを特に注目しているが、スライド番号18及び19について、小学校と中学校を比較すると、ほとんど変化がないことがわかる。セルフエスティームというのは、小学校から中学校になると普通は急激に落ちるものなので、これは習志野市の教育の素晴らしいところであると思う。その上で質問をしたい。スライド番号16については、動画視聴時間と正答率の関係を調査しているが、この調査だけ回答数が非常に少ない。他の調査の回答数は1,400程度に対して、1,100程度しか回答されていないのはなぜか、と質問

江住総合教育センター所長

確認し、後程お答えする、と回答

高橋委員

この調査だけ「その他」が多いのであれば、「その他」の平均正答率が気になる場所である。また、スライド番号14及び15だが、ゲーム時間と正答率の関係については、よく認識していると思うが、このような関係は必ずしも因果関係を示さないと思う。短絡的にゲーム時間を減らせば、成績が上がるということは恐らくない。先程のセルフエスティームも成績に関係していたが、背景にある家庭での過ごし方や両親の考え方など、根っこの部分がわかると良いと思う。少なくともゲーム時間を減らせばいいという考え方はしないほうが良い、と発言

馬場委員

昨年の資料を見てきたが、分かりづらかった記憶があったので、今回の報告はとても分かりやすかったと思う。スライド番号20について、個別最適な学びという観点での調査だが、多くの児童は「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している。しかし他の調査に比べて「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」と回答した児童の割合が多いと思うが、この結果について、具体的な対策はあるのか、と質問

江住総合教育センター所長

学校の授業も以前は一斉型の指導が多かったが、現在は自分で考え、自分のペースに合わせるような授業の内容について各学校の方で取り組んでいる、と回答

馬場委員

私たちの年代には、一斉型ではどうしても学習に遅れが出てくる子がいた。そういった児童が置いていかれない教育について研究していただき、この約20%の児童は、どういったところが自分に合っていないと感じているのかという部分を掘り下げて、対策をしていただきたい、と要望

利根川指導課長

御指摘いただいたように、個別最適な学びは非常に重要であると、指導課としても認識している。一斉型の授業についていくことができない児童が現在増えてきている。そのため、一斉型の授業を基本としつつも、それぞれの児童の理解度に合った学びを進めていく。一例としては、タブレット端末等を活用し、それぞれ問題を解いていく中で、早く解き終わった児童についてはさらに先に進み、進みがゆっくりである児童については、時間をかけながら学んでいくという取り組みをしていきたいと思っているので、指導課として今後研究していく、と発言

小熊教育長

先程保留となっていた質疑について回答は可能か、と発言

江住総合教育センター所長

1時間未満と回答した児童の数字に、スマートフォン等を持っていない児童の数が入っていないため、回答数が少なくなっていた、と回答

高橋委員

スマートフォン等を持っていない児童の正答率はどうなのか、と質問

江住総合教育センター所長

小学校の国語が74.1%、算数が71.8%と高い傾向を示している、と回答

古本委員

先程の馬場委員の質問に関連することだが、数年前から、この教育委員会会議で、一斉型の授業についていけない児童をどうするのかと課題になっていた。また、どのように学力を底上げすればよいのかという非常に難しい問題を議論した記憶がある。学力の差がつくのは上級生が多いと思っていたが、今回のデータ見ると、小学校1、2年生から差がついているというのが現状だったので、小学校低学年の児童の学力の底上げについて対策していただきたい、と要望

赤澤委員

2点伺いたい。1点目は、先程、高橋委員も触れていた「書くこと」の調査結果で正答率が向上したと思うが、どのような取り組みがよかったのかということ、教員の中で共有し、考察しているのか。2点目は、スライド番号24に記載されている、教育委員会としての取り組みの方針については、今年度の分析結果を基に検討していくと思うが、正答率が向上した項目の良い取り組みなど、昨年度との比較のデータは入れないのか、と質問

利根川指導課長

1点目の「書くこと」の正答率が向上したことについてだが、テストを受ける子どもたち自身やテストの問題が変わってきているということもあるので、今後、さらに分析をしていかなければならない部分は多くある。指導課としては、発問やノート指導、板書を基本として授業を行うように取り組んできている。国語に限らず、様々な教科で書く力が培われてきていることから、例えば社会科や理科といった教科でも、言葉を大切に、子どもたちが思考を整理し、表現していけるような授業づくりを続けていくという方針になっていくのではないかと考えている、と回答

赤澤委員

効果があった取り組みに関して、把握できるようにすべきである、と発言

江住総合教育センター所長

2点目の昨年度との比較についてだが、正答率が向上している取り組みについては、強調して次年度につながるよう取り組みをしていく、と回答

小熊教育長

指導や検証を今後どのようにしていくのかということが、御指摘いただいた学力の向上につながっていくと思う。調査結果を受けて、教育委員会としては今後どのようなスケジュールで指導の方向性を決めていくのか、と質問

利根川指導課長

先程説明した学力向上委員会での分析を深めつつ、さらに指導課の指導主事が中心となり、それぞれの教科の中で、学力の向上を図る取り組みを年度末までにまとめ、次年度の指導重点や指導方針に反映させていきたいと考えている、と回答

小熊教育長

全国学力・学習状況調査は年度の早い段階で検査がある。1日も早く方向性を定め、具体的な指導項目を明示し、実際に各学校で指導した結果の検証をしていく必要があるということが、教育委員の皆様からの御意見と捉えているので、それを踏まえて進めなければならない、と発言

小熊教育長が他に質疑なしと認め、報告事項(5)は終了した。

報告事項(6) 次期習志野市子どもの読書活動推進計画の策定に関するアンケートの結果報告について (社会教育課)

越川社会教育課長

報告事項(6)「次期習志野市子どもの読書活動推進計画の策定に関するアンケートの結果報告について」、説明する。本市では全ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所で自主的に読書活動を行うことができるよう、子ども達の読書活動をより推進するために、習志野市子どもの読書活動推進計画を策定している。各種事業を行っており、現行計画の期間は令和7年度で満了する。

スライド番号2を御覧いただきたい。先日、文化庁が実施した2023年度の国語世論調査において、6割を超える人が、1か月に1冊も本を読まないという衝撃的な結果が9月17日付け各種メディアで報道された。5年前の前回調査からは15%あまり増加しており、調査方法が対面から郵送に変更されたことから、単純な比較には注意が必要だが、年代や地域によらず本を読まない人

の割合が、まんべんなく高い結果となった。スマートフォンやタブレットの利用頻度が高まる中で読書の時間が取って代われ、読書離れが進んでいるという分析がなされている。このような読書離れが社会の根底にあることを踏まえた上で、令和8年度からの次期子どもの読書活動推進計画の策定にあたり、現行計画の成果検証や課題把握のため、今年5月にアンケート調査を実施したので、その報告をさせていただく。

スライド番号3を御覧いただきたい。今回のアンケートの実施概要については、市立の幼保こども園及び市立小中高等学校生の該当の全数を対象に、4歳児の保護者、小学校3年生、小学校6年生、中学校3年生、高校2年生に実施した。実施方法は、高校2年生のみ紙媒体で実施し、その他は、ちば電子申請サービスを用いてインターネット上で回答する形とした。対象者数、回答者数、回答率については表に記載のとおりである。

スライド番号4を御覧いただきたい。設問については、4歳児の保護者が全17問、小中高校生が全11問であり、内容は記載のとおりである。基本的には前回の令和4年度の間見直しの際に実施したアンケートの設問をベースとしつつ、昨年度の社会教育委員会議においての御意見を踏まえ、設問の追加や削除、選択肢の追加を行っている。これらの結果の分析にあたり、学年ごとの比較、設問ごとのクロス集計などを行うとともに、計画策定時の基準値である2017年度の値との比較を行っている。今回はその中から抜粋して説明をさせていただく。

スライド番号5を御覧いただきたい。4歳児保護者へのアンケート結果について、単純集計結果を抜粋し説明する。なお、複数回答の設問については、回答割合の合計が100%となっていないことを、あらかじめ御承知おきいただきたい。問1は、アンケートの回答者についての設問である。今回の調査では、市立幼保こども園で使用している保護者への連絡ツール「コドモン」に登録している保護者全員を対象としたが、回答者数310名のうち、「母親」が84.8%、「父親」が15.2%となっている。

スライド番号6を御覧いただきたい。問3の読み聞かせをするのは誰かという設問では、「母親」が89.7%と最も多く、次いで「父親」が57.7%、以下、「子どもの兄弟姉妹」、「祖母」の順となっている。なお、「読み聞かせをしていない」という回答は7.7%であった。

スライド番号7を御覧いただきたい。問8の本の入手方法についてという設問では、「家にある本を利用する」が78.9%と最も多く、「本屋やインターネットで本を購入する」が58.5%、「図書館から借りる」が34.5%であった。この他、「幼稚園・保育所(園)等から本を借りる」と回答した人も4.6%存在している。

スライド番号8を御覧いただきたい。問9の読み聞かせに使う本を選ぶとき、どのような情報を参考にしているかという設問では、「もともと知っている本から選ぶ」が51.2%と最も多く、「子育て関連のウェブサイト」、「友人等からの情報」や「幼稚園・保育所(園)等からの情報」の他、30%を占める「その他」の自由記載に多く見られた回答としては、「自分の子どもが選んだ本」となっている。

スライド番号9を御覧いただきたい。読み聞かせをするうえで障壁となっていることについてという設問では、「保護者が仕事や家事で忙しく時間がない」が55.1%、「保護者が疲れていて読み聞かせできない」が33.7%であった一方で、「本の入手が難しい」、「本の選び方が難しい」といった回答は5%未満であった。なお、「障壁は特にない」という回答も24.8%となっている。

スライド番号10を御覧いただきたい。問12の地域の図書館で子どもの本を借りない理由を問う設問では、「図書館で子どもの本を借りたいが、図書館に行く時間がない」が42.1%である一方、「図書館以外の場所で子どもの本を入手しており、図書館で借りる必要がない」と回答した人も40.5%となっている。

スライド番号11を御覧いただきたい。問17の今後、実施してもらいたいことについてのフリーアンサーにおいては、図書館関係では返却場所、借りる場所、蔵書に関する要望、図書館での読み聞かせなどのイベントに関する要望が複数寄せられた。幼保こども園関係では、幼保こども園で

の本の貸出希望、月齢に合った本や読み聞かせに使った本を紹介してもらいたいという意見、また、幼保こども園でたくさん読み聞かせをして欲しいといった意見が複数あった。

スライド番号12を御覧いただきたい。次にクロス集計の主な結果についてである。父親と母親の読み聞かせの頻度について、母親の方が頻度は高い結果となっている。

スライド番号13を御覧いただきたい。子どもへの読み聞かせの好き嫌いと保護者自身の読書の好き嫌いには相関が見られた。

スライド番号14を御覧いただきたい。保護者自身の読書の好き嫌いと子どもの頃の読み聞かせの経験においては、子ども時代に読み聞かせをしてもらうと、本を好きになりやすい傾向が見られた。

スライド番号15を御覧いただきたい。計画に掲げる3つの目標値に係る設問の計画策定時の基準となった2017年度の数値と今回の数値、そして目標値との比較について説明する。①保護者自身が本、読書が好きかどうかという問いに対して、「好き」、「どちらかといえば好き」の合計は66.8%と、基準値より11.8ポイント減少している。②読み聞かせの頻度について、週1回以上との回答は65.5%と基準値より9.1ポイントの減少となっている。③図書館で子どもの本を借りる割合についても、月1冊以上との回答は38.7%と6.9ポイントの減少となっている。いずれにおいても、目標値は達成せず、基準値よりも低い値となっている。

スライド番号16を御覧いただきたい。小学校3年生から高校2年生のアンケート結果についてである。①読書が好きかとの問いに対して、「好き」、「どちらかといえば好き」の割合が小学校3年生は90.9%、小学校6年生は82.1%、中学校3年生は78.4%、高校2年生は63.5%と学年が上がるにつれて低くなっている。

スライド番号17を御覧いただきたい。②学校の図書室の利用頻度については、月1回以上との回答が小学校3年生では60.2%、小学校6年生では52.3%、中学校3年生では20.7%、高校2年生では3.3%となっている。

スライド番号18を御覧いただきたい。③地域の図書館の利用頻度についても、月1回以上との回答は小学校3年生では43.5%、小学校6年生では27.1%、中学校3年生では12.7%、高校2年生では3.6%となっている。

スライド番号19を御覧いただきたい。④平日1日あたりの読書時間については、30分以上との回答が小学校3年生では39.7%、小学校6年生では39.6%と小学校では一定程度維持されているが、中学校3年生では24.8%、高校2年生では8.9%となっており、いずれにおいても、学年が上がるにつれて数値は下がっていく傾向にある。

スライド番号20を御覧いただきたい。⑤こうなればもっと学校の図書室へ行くとの設問への回答については、「自分の興味のある本があること」が最も高くなっており、次いで全体の合計としては「目的の本が探しやすいこと」、「どんな本が図書室にあるかがわかること」の順となっている。この他、「休み時間や放課後に自由に図書室を使えるようになること」にも、一定数の回答があった。なお、自分の興味のある本については、令和4年度調査でのこうなればもっと学校の図書室へ行くについてのフリーアンサーで、ライトノベルを希望する回答が若干多いものの、好きなタレントのファンブック、お菓子づくりや鉄道、ファッション、スポーツ系の雑誌など、個々の児童が興味のある非常に多種多様な本が挙げられていた。今回の調査では前回の回答を踏まえて、類型化をし、選択肢に自分の興味のある本があることとしている。

スライド番号21を御覧いただきたい。⑥こうなればもっと地域の図書館へ行くとの設問への回答についても全体としては同様の結果となっている。

スライド番号22を御覧いただきたい。⑦本の入手方法についての設問は、学年が上がるにつれて、図書館や図書室で本を借りる人が大きく減少し、本屋やインターネットで購入する層が増加している。なお、中学校3年生では「友達から本を借りる」という回答が約20%に上っている。

スライド番号23を御覧いただきたい。⑧本を読むきっかけについての設問は、全体としては「家

族にすすめられた」という理由が多いが、中学校3年生以降は「友達にすすめられた」という回答が上回っている。また、小学校3年生では「学校の「おはなし会」で知った」という回答の割合も多くなっている。なお、「その他」としての自由記載の中では、低学年の「自分が面白いと思った」といった回答や、学年が上がると「インターネットやSNS」をきっかけとして挙げた回答が多数あった。

スライド番号24を御覧いただきたい。クロス集計の主な結果について説明する。学校の図書室または地域の図書館の利用頻度について、小学校6年生では月1回以上行く児童の割合は約6割となっている。一方、約4割の児童はいずれにもほとんど、または全く行かないと回答している。

スライド番号25を御覧いただきたい。中学3年生においては、月1回以上行く生徒の割合は約3割となっており、約7割の生徒はいずれにもほとんど、または全く行かないと回答している。

スライド番号26を御覧いただきたい。計画に掲げる3つの目標値に係る設問の本計画策定時の基準値との比較について説明する。なお、小学校3年生に対するアンケートは、今回初めて実施したため、前回との比較はない。まず、①読書が好きな子どもの割合について、小学校6年生では82.1%、中学校3年生では78.5%と基準値よりそれぞれ1.4ポイント、3.0ポイント増加している。要因として、比較的高い値が出ている第七中学校の取り組みを伺ったところ、図書委員が全校集会などで本の大切さを発表したり、おすすめの本を紹介するなどの活動を行っていることや学校司書がおすすめの本などの掲示を行っていること、本の貸出が多いクラスに教員の好きな言葉などを入れた「しおり」のプレゼントキャンペーンを企画して行っていることなどが挙げられた。一方、②平日1日当たりの読書時間が30分以上との回答では、小学校6年生で39.7%、中学校3年生で24.7%と基準値よりそれぞれ3.3ポイント、6.5ポイント減少している。①、②については、いずれの指標も目標値には達していない。

スライド番号27を御覧いただきたい。③月1回以上学校図書館・地域の図書館を利用するとの回答では、小学校6年生で58.2%、中学校3年生で27.4%と基準値よりそれぞれ29.2ポイント、15.2ポイントと大幅に増加している。こちらについては、目標値を達成しており、特に小学校6年生では18.2ポイント上回っている。要因として、比較的高い値が出ている谷津南小学校の取り組みを伺ったところ、クラス毎に図書室に行くコマを週1回割り当て、その中で、読書や貸し出しや返却が出来る時間があるなど、図書室に行く機会を作っていることなどが挙げられた。一方で、全体としてこのように図書室を使う頻度は伸びているものの、貸出冊数は増えていないとの話も各学校から伺っている。

スライド番号28を御覧いただきたい。これらの結果を踏まえた全体をとおしての主な課題としては記載のとおりである。幼保こども園の保護者に関して、1点目は、保護者の多忙や疲労により、読み聞かせができていない層への対応である。具体的には、手軽に読める本の紹介や、幼保こども園等での読み聞かせの強化や絵本の拡充などが考えられる。2点目は、保護者自身が読書や読み聞かせを好きになるような取り組みの実施である。子ども時代の読書習慣の形成が極めて重要であることを鑑み、家読(うちどく)へつながるきっかけとなる取り組み等を改めて検討する必要がある。3点目は、図書館に行きたいが行けない人への対応である。具体的には、令和4年度に導入した電子図書の利用方法のさらなる周知や魅力の拡充、市役所での予約本受け取りの取り組みなどの効果的な周知などが考えられる。4点目は、図書館や幼保こども園から保護者及び子どもへのより効果的な情報発信である。現在、未就学児童の保護者に対し、施設で読み聞かせをした絵本のタイトル等、システムを使った情報発信、ブックリストの配布、幼保こども園等からの園だよりなど様々な機会を捉えて本が紹介されているが、さらなる取り組みを行っていく必要がある。小・中・高等学校生に関しては、主に2点ほどある。1点目は、読書の面白さやおすすめの本などをどのように児童生徒に発信し、年代に応じた効果的なきっかけづくりをしていくかである。読書の面白さやおすすめの本、各種イベントの情報などをどのように児童生徒に発信していくか、特に読書に割ける時間が少ない、あるいはそもそも本に興味が少ない中で、本に興味を持つきっかけとなる1冊、読むことが楽しいと思える1冊と出会えるか、きっかけとなる1冊と子どもたちをど

のようにつなぐことができるかという視点が大切である。2点目は、特に中学生以上の子どもたちにとって、利用しやすい学校図書室や地域図書館の環境づくりである。生徒が訪れやすい物理的な工夫、学校図書室や学校司書を活用した読書活動の展開を一層促していく必要がある。併せて、学校と図書館双方の情報共有、連携の強化、図書館の利用方法を紹介し、読書活動や調べ学習に役立ててもらふことにより、利用頻度をいかに上げていくかという取り組みが必要である。計画策定にあたっては、これらの課題を共有する中で図書館、学校司書、関係各課とも連携し、効果的な取り組みや各種事業を検討していく。

スライド番号29を御覧いただきたい。今後の計画策定のスケジュールである。今回報告させていただいた内容は、8月22日に社会教育委員会議でも報告をしている。今後は、アンケート結果を基に関係各所へのヒアリングを実施し、課題の共有、計画に位置付ける施策の方向性について検討していく。また、現計画では6つの目標指標を定めているが、これらの指標についても併せて検討していく予定である、と概要を説明

高橋委員

読書はとても大切で、素晴らしい活動や綿密な評価をしていると感じた。スライド番号4で高校2年生に対して、住まいは市内か市外かとの設問があるが、スライド番号16を見ると、中学校3年生から高校2年生になるにつれて、読書が好きという割合が落ちている。市内在住か市外在住かによって読書が好きと回答する割合に違いはあるのか、と質問

越川社会教育課長

データは市立小中学校と、習志野高校を対象にしたものである。なお、市内在住か市外在住かの違いによるデータの分析は行っていないが、今後検討していく、と回答

高橋委員

スライド番号4にあるように、わざわざ高校2年生に市内在住か市外在住かを聞いているので、その違いによる分析を行う意図があるのではないかと質問

越川社会教育課長

市内から通学している生徒と市外から通学している生徒の数については把握しているが、分析は行っていなかったため、今いただいた観点での分析をしていく、と回答

高橋委員

もしも読書が好きではないという回答の割合が、市外から通学している生徒の方が高ければ、習志野市の小中学校の教育が正しいという傍証になると思うので、分析をしていただきたい、と要望

古本委員

私たちが義務教育を受けていたころは、課題図書があったが、現在はあるのか。また、夏休みの宿題で課題図書の読書感想文はあるのか、と質問

利根川指導課長

課題図書は現在もあり、夏休みの宿題に課題図書の読書感想文もある、と回答

古本委員

読書感想文を書いたことは今も覚えているが、とても大切なことなのでぜひ継続していただきたい

い。また、図書館の利用頻度を上げたいという話であったが、現在も学校には図書委員会は存在するのか、と質問

利根川指導課長

図書委員会は小学校、中学校ともに、それぞれの学校で組織されている、と回答

古本委員

図書委員から他の生徒に対し、例えば、図書委員会からのお知らせとして、図書室は午後3時から午後5時まで開いているということを昼休みに放送することや、自分たちが読んで面白かった本を紹介するなどの広報活動はしているのか、と質問

利根川指導課長

各学校一律に同じかはわからないが、小学校では図書委員がおすすめの本を葉っぱの形をした紙に書いて図書室に貼っていたり、中学校では図書委員が読んだ本を紹介するなどの取り組みをしていると伺っている、と回答

古本委員

なぜ質問したのかというと、図書室におすすめの本を書いた紙を貼ったとしても、図書室に行かなければ見ないと思う。この本は面白いということを図書委員から他の生徒に広報するために、学校だよりなど、普段から目につきやすいところに掲載したり、生徒同士で話題にすることが、啓蒙活動になると思う、と発言

馬場委員

読書の話題が出るたびに、読書をしている人が少なくなっているということを残念に思っている。このアンケート結果を見て、私も読書の頻度が減っているのでも、読書をしようと思った。スライド番号7及びスライド番号10の4歳児保護者への設問についてだが、スライド番号10で、「図書館で子どもの本を借りたいが、図書館が近くにない」と回答した方が13.2%いる一方で、スライド番号7では、「移動図書館きぼう号で本を借りる」と回答した方が3.2%となっており、本を借りたいと思っはいるが、移動図書館には行っていないという結果になっていることがわかる。移動図書館は図書館が近くにない場所へ行くとするが、移動図書館の広報が足りないのか、他の理由があるのかはわからないが、手立てが必要であると思う。図書館が遠くにあると、子どもを連れていたり、外が暑かったりすると、なかなか足が向かないと思う。また、電子図書が普及し始めており、状況は変わってくるのかもしれないが、この移動図書館の利用率を上げる対策などはあるのか、と質問

岡野中央図書館長

移動図書館は、馬場委員の御指摘のとおり、近くに図書館がない方のために運行しているものである。現状を申し上げますと、移動図書館は市内に18ステーションある。小学校のステーションでは、子どもの下校時間に合わせて、1時間以上停車しているが、普通のステーションは2週間に1度、30分停車する。その時間に合わせて利用をする方は、近隣の方などわずかである。我々としても、移動図書館の利用促進については常に検討しており、広報紙などでPRをしているが、なかなか利用者が増えない状況であるため、今後も移動図書館の周知に努めていきたい、と回答

越川社会教育課長

補完するサービスとして、令和4年7月5日より、市役所の開庁日に2階の社会教育課の窓口

で図書館の予約本の受け渡しを始めている。これは近くに図書館がないという、中学生からのお便りで始まったものである。これまで多くの方に利用していただき、令和5年度の実績を申し上げますと、延べ1,734人の方が4,363冊の本を借りている。大きな絵本が返却ポストに入らないという話も窓口でいただいているので、小さい子どもを持つ保護者にも利用いただいている。こういった形で補完をしながら、移動図書館についても広報をしていきたい、と回答

馬場委員

移動図書館の停車時間が30分というのは少し短いと思う。スケジュールの関係などがあるとは思いますが、子どもの頃の読書体験が大人になってからの読書への興味につながると思うので、利用しやすくなるように工夫をしていただきたい、と要望

小熊教育長が他に質疑なしと認め、報告事項(6)は終了した。

その他

高橋委員

私は教育委員として、教育全体に貢献する気持ちで活動している。しかし、特に保健教育が専門なので、習志野市の保健教育にはぜひ貢献したいと思っている。体育科の公開研究会の案内をいただいているが、ある小学校で20以上の公開授業がある中で、保健の授業が1つもない。学習指導要領では、小学校3年生以上で保健が内容Gとして位置付いているが、なぜ1つもないのか、と質問

荻原保健体育安全課長

今年7月に合同訪問などを実施した学校では、猛暑であったことから、各学校において実技ではなく保健の授業を積極的に実施しているところである、と回答

高橋委員

私の立場からすると、猛暑であったり雨が降ったりしたときに保健の授業をするのではなく、系統的、計画的に実施していただきたいと思う。特に公開研究会では人が集まるので、授業で良い提案があれば広まると思うが、案内のあった公開研究会の中に、保健の授業が1つもないことが残念である、と発言

荻原保健体育安全課長

教育課程上、計画をずらしているということもあるが、保健の公開研究会については、第一中学校において実施する予定なので御覧いただきたい、と発言

小熊教育長

高橋委員からは昨年頃よりこの御意見をいただいているので、教育委員会としてしっかりと受けとめ、保健の授業が系統的、計画的に展開できるように、保健体育安全課と指導課で連携していただきたい。また、公開研究会は指導課が所管しているので、学校訪問も含めて計画をしていただきたい、と要望

古本委員

補足だが、以前に保健の公開研究会で骨粗鬆症について授業をするよう依頼を受けたことが

あるので、保健の公開研究会も実施していると思う、と発言

小熊教育長が他に質疑なしと認め、その他は終了した。

＜報告事項(3)及び(4)並びに議案第28号については非公開。
ただし、報告事項(4)については千葉県の定める公表日である
令和6年10月17日を経過したため、会議録を公開とする。＞

報告事項(3) 臨時代理の報告について(令和6年度習志野市立小・中・高等学校学校運営協議会委員の任命について) (指導課)

報告事項(3)は終了した。

報告事項(4) 令和7年度習志野市立習志野高等学校入学者選抜における選抜・評価方法について (学務課)

寺嶋学務課長

報告事項(4)「令和7年度習志野市立習志野高等学校入学者選抜における選抜・評価方法について」、説明する。令和2年度に前期、後期選抜が一本化されてから5年目となった。習志野高等学校においては、普通科、商業科それぞれでの一般入学者選抜と、2次募集の選抜・評価方法の作成をすることになる。公正公平で透明性の確保された選抜の実施に向け、資料に記載のとおり、県の定めた所定の様式で作成したものである。

資料1ページ目を御覧いただきたい。1、期待する生徒像は、基本的な生活習慣が身につけており、習志野高校の教育方針を理解し、意欲的に学校生活に取り組む生徒を求めている。また、学習意欲、スポーツ活動、文化的活動のいずれかにおいて優れており、強い意志と積極的な姿勢を有する生徒の入学を望んでいる。2、選抜資料は、学力検査、調査書、学校設定検査の3点である。3、評価項目及び評価基準、(1)学力検査は、5教科各100点満点の合計500点で評価する。(2)調査書は、中学校3年間の各教科の評定の合計を点数化する。

資料2ページ目を御覧いただきたい。(3)学校設定検査の口頭による自己表現は、意欲・態度、テーマ・内容、スピーチの能力、実技による自己表現は、意欲・態度、基礎的技能、専門的技能の3つの評価項目について、各評価基準に基づき2名の評価者が、それぞれ3段階の評価を行い、点数化する。なお、検査時間は3分間である。昨年度、実施した種目は、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、柔道や剣道、基礎運動能力等の種目の中から受験者が1つを選び、自己表現検査を行う。中学校時代の部活動が実技による自己表現種目がない場合、この基礎運動能力、口頭による自己表現、また他の種目を選択することも可能である。その他にも、吹奏楽の自己表現ではコントラバス以外の弦楽器・管楽器は各自持参し、打楽器の場合は、小太鼓とマリリンバのどちらかを受験者が選択し演奏する。その際、歌唱による自己表現を行うことも可能である。普通科の選抜方法としては、各評価資料の総得点により順位をつけ資料を慎重に審議しながら入学許可候補者を選抜する。4、選抜方法は、市内優先入学として、本人及びその保護者が習志野市に住民登録があり、実際に居住し、習志野市立中学校を令和7年3月に卒業見込みの者を優先とし、普通科募集人員の20%程度を確保する。第1選抜として、受験者数が募集人員以内の場合は、受験者数の60%、募集人員を超えた場合は、募集人員の60%までを入学許可候補

者とする。優先入学、第1選抜で決まらなかった者については、イにあるように、学力検査、調査書、学校設定検査の得点に学校で設定した係数を乗じて算出した総得点により順位をつけ、慎重に審議しながら募集人員までを入学許可候補者とする。

資料4ページ目を御覧いただきたい。商業科においては、普通科同様の選抜資料・評価項目及び評価基準を用いて、学力検査の得点、調査書の得点及び学校設定検査の得点を全て合計した総得点により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、募集人員までを入学許可候補者とする。

資料6ページ目を御覧いただきたい。第2次募集が必要となった場合の、普通科及び商業科における選抜資料は、調査書、面接、作文の3点となる。一般選抜と同様に、調査書においては、中学校3年間の各教科の評定の合計を点数化する。面接及び作文においては、3つの評価項目について、2名の評価者が評価基準に基づき、それぞれ3段階で評価を行い、点数化する。2次募集では普通科・商業科ともに、調査書の得点、面接の得点及び作文の得点を全て合計した総得点により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、2次募集の募集人員までを入学許可候補者とする。令和6年度入学者選抜に向け、習志野高校の特色を活かしつつ、公正・公平で透明性が確保された選抜を実施できるよう、準備を進めていく。なお、この選抜・評価方法については、令和6年10月17日が情報公開解禁日となっており、全ての千葉県内公立高等学校のホームページにて公開となる予定であることから、本情報の取り扱いについては、御留意いただきたい、と概要を説明

小熊教育長が質疑なしと認め、報告事項(4)は終了した。

議案第28号 令和6年度習志野市教育委員会顕彰規程に基づく表彰について (教育総務課)

宮崎学校教育部主幹

議案第28号「令和6年度習志野市教育委員会顕彰規程に基づく表彰について」、概要を説明

採決の結果、議案第28号は原案どおり可決された。

小熊教育長

令和6年習志野市教育委員会第9回定例会の閉会を宣言